

「わかみメロン」の育苗進む

3月から「わかみメロン」の育苗作業が始まりました。当丁Aの若美育苗センターでは上旬からハウス栽培向けの播種作業が、30日(水)からは露地用の作業が行われています。今年度は、同センターで約6万本を手掛ける見込みです。

23日(水)は同センターの作業員が、主力品種「秋田美人」を播種しました。以前に播種した苗には、発芽状態や温度計などを確認しながら、かん水やポットへの鉢上げ作業などを行いました。仮植用苗は順次生産者に供給され、定植苗は4月上旬から生産者に引き渡されています。今年度は42戸の生産者が「わかみメロン」の栽培に取り組みます。

秋田市南CEの建設工事終え引き渡し

令和3年6月から秋田市四ツ小屋で進められていた秋田市南カントリーエレベーターの建設工事が終了し、秋田市南カントリーエレベーター利用組合に引き渡されました。同CEは水稲412ヘクタールと大豆80ヘクタールに対応しており、最大貯蔵量は約3000トンに上ります。今年の秋から稼働し、大規模基盤整備や水稲と他品目の複合経営などが進むなかで、稲作の効率化が期待されています。

3月15日(火)の引き渡し日には、同組合の榎昌範代表理事や工事関係者らが同CEの内外を確認しました。施設設備などに不備がないか点検した他、警備システムの使用方法なども確かめました。

「わかみメロン」の苗の鉢上げをする作業員



CEの内部を確認する関係者



NEWS & TOPICS

冬期・新規就農研修を終えて園芸品目栽培に意欲

3月10日(木)、秋田市園芸振興センターの冬期農業研修の閉講式が同センターで開かれました。昨年10月からの半年間に葉菜類や花きなどの栽培管理や収穫作業を行い、冬期栽培に関する技術や知識を身に付けた4名が、修了証書を受け取りました。3名が農業法人で、1名が自営で園芸作物の生産に取り組んでいます。

22日(火)には新規就農研修の修了式が行われ、6期生の3名が園芸品目の栽培方法や農業経営を学ぶ2年間の研修を終えました。3名は「新鮮な野菜を地域に提供したい」「高品質な花を全国に届けたい」「耕作放棄地を活用して地元の発展に貢献したい」など経営理念や今後の目標を語り、農家人生のスタートに意気込みました。3名のうち2名が独立就農し、1名が親元で就農します。現在は7期生が来春の就農を目指して研修しており、4月から新たに8期生が参加しています。



1



2



3

- 1 園芸作物の冬期栽培を学んだ研修生ら
- 2 2年間の研修を終えて新規就農する6期生ら
- 3 修了証書を受け取り就農に意気込む修了生

